



# 声をなくしたことり

～ 小さな勇気のものがたり ～



森の奥に、 **ピ°ピ°**という小さなことりがいました。

ピ°ピ°は歌うことが大好きでした。



でも、ピピには困っていることがありました。

他の鳥たちの前だと、声が出なくなってしまうので  
す。

mo

「ピピ、一緒に歌おうよ！」

「.....」

pi

ピピは口を開けても、**声が喉の奥で固まって**しまいます。



「どうして僕は、みんなの前だと歌えないんだろ  
う...」

ひとりぼっちの夜、ピピは泣きました。

\* \* \*



ある日、森に**年老いたふくろう**がやってきました。

「おや、泣いているのかい？」

pi

「僕、みんなの前だと声が出ないんです...」

「ほう。それは声<sup>こゑ</sup>をなくしたのではないよ」

fu



「お前さんは、勇気を眠らせているだけじゃ」

ふくろうは静かに言いました。

「完璧に歌おうとしなくていい。  
最初の一音だけ出してごらん」

fu

「最初の...一音...?」

＊ ＊ ＊



次の朝、仲間たちが集まりました。

「今日も一緒に歌おう！」



ピピの心臓がドキドキします。

でも、ふくろうの言葉を思い出しました。

「最初の一音だけ...」

ピピは目を閉じて、  
小さく息を吸いました。

「ピ…」



小さな、小さな声。

でも、確かに声が出ました。

mo

「ピピ！聞こえたよ！」

「もっと聞かせて！」

ri



ピピは気づきました。

完璧じゃなくても、伝わるんだ。

それから、ピピは少しずつ歌えるようになりました。

まだ緊張するけれど、

「最初の一音」を出す勇気があれば大丈夫。

この物語から：

完璧を目指さなくていい。

小さな一歩を踏み出す勇気が、すべてを変える。

お し ま い



今日、あなたの「最初の一音」は何ですか？

- 声をなくしたことり -